

平成30年度小中一貫教育推進計画書

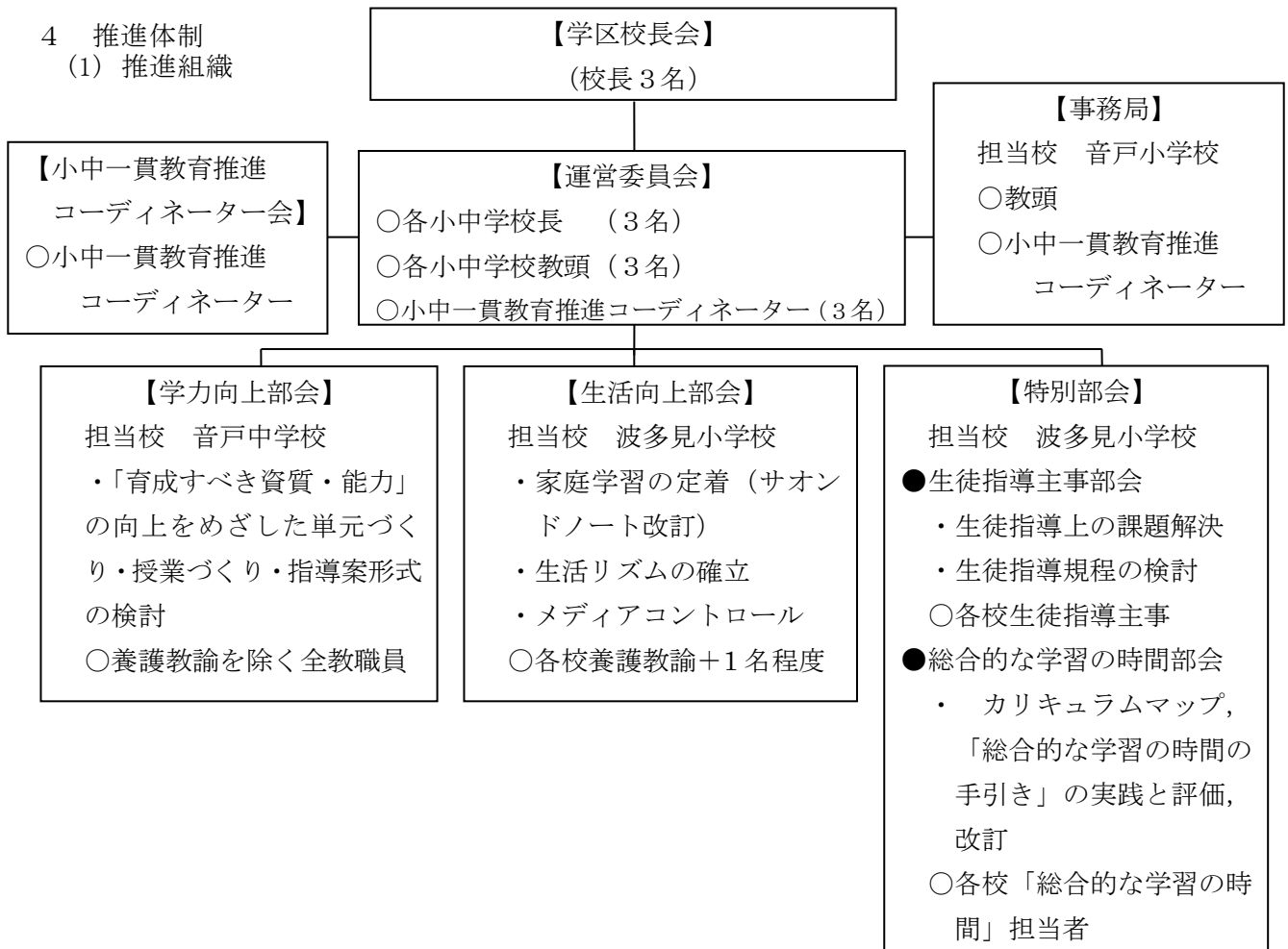
中学校区名	音戸中学校区
代表者所属校 校長氏名	呉市立音戸小学校 校長 高橋 智子

- 1 目指す児童生徒像 ふるさとを愛し、自律できる児童生徒

- 2 育成を目指す資質・能力
 育成を目指す資質・能力として次の6つの力を設定した。
 「課題を設定する力」「情報を収集する力」「思考表現する力」「協働的に関わる力」
 「自己を理解し、生き方を考える力」「地域の一員として関わる力」

- 3 研究主題と設定理由
 - (1) 研究主題 主体的に学ぶ児童生徒の育成
 ～「育成すべき資質・能力」の向上をめざした単元づくり・授業づくりを通して～
 - (2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）
 平成27年度から2年間にわたり、学力向上チャレンジ校事業および小中一貫教育の研究指定を受け、「音戸中学校区授業モデル」を作成し、「学習者基点の授業作り」に焦点をあてて取組を進めた。さらに、昨年度は、「育成すべき資質・能力」として、「課題を設定する力」「情報を収集する力」「思考表現する力」「協働的に関わる力」「自己を理解し、生き方を考える力」「地域の一員として関わる力」の6つを設定し、「資質・能力」の向上をめざした学習者基点の単元づくり・授業づくりに取り組んだ。「資質・能力」のルーブリックを作成して教師自身が自己評価を行うとともに、児童生徒には「学びの宝石」として育てたい資質・能力を提示し、学習のめあてを持たせてルーブリックで自己評価をさせた。
 その結果、中学校区で育成すべき「資質・能力」のうち、「思考・表現する力」「協働的に学ぶ力」の教師と児童生徒のルーブリック評価は、B以上の肯定的評価をした割合は教師も児童生徒も80%以上を達成した。
 学年×10分の家庭学習ができている児童生徒の割合は80%以上を達成したが、メディアコントロールや家庭学習に対する意識には、ばらつきがあり内容面の充実も課題である。
 一方、音戸中学校区児童生徒の課題として、「自己を表現することへの苦手意識」「自己肯定感の低さ」があり、学年が上がるにつれ、その傾向が強くなる傾向がある。9年間の生活科・総合的な学習の時間の探究的な学習を通して、主体的・協働的に課題を解決する資質・能力及び「自己を理解し、生き方を考える力」「地域の一員として関わる力」を育て、第9学年の終わりには自分の生き方を、自信を持って表現できるようにさせたい。
 昨年度の取組を踏まえ今年度は、生活リズムの確立、生徒指導上の課題解決を「生活向上部会」「生徒指導主事部会」で継続して行い、「育成すべき資質・能力」の向上をめざした単元づくり・授業づくりを「学力向上部会」で、「総合的な学習の時間の手引き」に添った実践を積み上げながら、手引きの改訂を「総合的な学習の時間部会」で行っていく。

4 推進体制
(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業

- ・ 中学校教員が小学校へ行き、担当教科（未定）の授業を実施する予定
- ・ 小学校教員が中学校の夏休みの学力補充支援

(3) その他

ア 小小連携交流会

- ・ 総合的な学習の時間（小学3・4・5・6年生）

イ 小中連携交流会

- ・ 総合的な学習の時間（小学5年生と中学1年生）

5 内容

①「育成すべき資質・能力」の向上をめざした単元づくり・授業づくり

「学力向上部会」には養護教諭以外の全員が所属し、「育成すべき資質・能力」の向上を目指し、音戸中学校区授業モデルに基づいた主体的な学びを促進する授業づくり（学習者基点の授業づくり）を実践し、教師用・児童用のルーブリック評価を行う。サオンドノート（自主学习ノート）をツールにした家庭学習の習慣化と自主学习の内容向上に取り組む。（家庭学習の手引きの活用）

②生活リズムの確立とメディアコントロール

「生活向上部会」を養護教諭で構成し、生活リズムの確立とメディアコントロールによって家庭教育支援を行い、家庭学習の習慣化につなげる。

③児童生徒の課題把握と生徒指導

「生徒指導主事部会」を生徒指導主事で構成し、「小中合同いじめ撲滅キャンペーン」「小中合同挨拶運動」に取り組むとともに、各校の生徒指導上の課題を把握し、共通認識をもって課題の解決に取り組む。

④「総合的な学習の時間の手引き」の実践と改訂

「総合的な学習の時間部会」を総合的な学習の時間の担当で構成し、本中学校区で作成した「総合的な学習の時間の手引き」及び「生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムマップ」に添った授業実践を行い、「育成すべき資質・能力」のルーブリック評価を行う。また、新学習指導要領に則り、実践を積み上げながら、手引きの改訂を行う。

6 推進計画

月	日	研 修	場 所
4		○小中一貫教育推進コーディネーター会 ○学区校長会	音戸小 音戸小
5		○学区校長会 ○運営委員会 ○小中一貫教育推進協議会総会	音戸小 音戸小
6		○学区校長会 ○小中一貫教育推進コーディネーター会 ○第1回小中合同授業研究会・学力向上部会（音戸中研究授業）	音戸小 音戸小 音戸中
7		○学区校長会 ○運営委員会	音戸小
8		○生活向上部会 ○特別部会（生徒指導主事部会） ○特別部会（総合的な学習の時間部会）	音戸小 音戸小 音戸小
9		○学区校長会 ○小中一貫教育推進コーディネーター会	音戸小 音戸小
10		○第2回小中合同授業研究会・学力向上部会（音戸小研究授業）予定 ○学区校長会 ○小中一貫教育推進コーディネーター会	波多見小 音戸小 音戸小
11		○第3回小中合同授業研究会・学力向上部会（波多見小研究授業）予定 ○学区校長会	音戸小 音戸小
12		○学区校長会	音戸小
1		○生活向上部会 ○特別部会（生徒指導主事部会） ○特別部会（総合的な学習の時間部会） ○学区校長会	音戸小 音戸小 音戸小 音戸小
2		○学区校長会○運営委員会 ○小中一貫教育推進コーディネーター会 ○小中一貫教育推進協議会全体会	音戸小 音戸小 音戸小
3		○学区校長会	音戸小

※ 部会は、随時開催します。

7 見込まれる成果及び検証方法

(1) 見込まれる成果

「中学校区で育成すべき資質・能力」の児童用、教師用ルーブリックを作成して、音戸中学校区授業モデルに基づいた主体的な学びを促進する授業づくり（学習者基点の授業づくり）を創造していくことにより、小中9年間を通して身に付けるべき資質・能力の向上が見られるであろう。

(2) 検証方法

- ① 「育成すべき資質・能力」の向上を目指して作成したルーブリックによる授業者の自己評価
「育成すべき資質・能力」の向上を目指して児童生徒用に作成したルーブリックによる児童生徒の自己評価

【達成目標】

- ・ B評価以上の教員の割合が85%以上
- ・ B評価以上の児童生徒の割合が85%以上

- ② 「総合的な学習の時間の手引き」及び「生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムマップ」に添った授業実践と、作成したルーブリックによる授業者の自己評価
「育成すべき資質・能力」の向上を目指して児童生徒用に作成したルーブリックによる児童生徒の自己評価

【達成目標】

- ・ B評価以上の教員の割合が85%以上
- ・ B評価以上の児童生徒の割合が85%以上

- ③ サウンドノートによる家庭学習時間の調査

【達成目標】

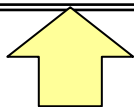
- ・ 1～6年生は、（学年×10分+10分）ができた児童の割合が85%以上
- ・ 7～9年生は、（学年×10分）ができた生徒の割合が80%以上

8 呉市教育委員会以外の指導・助言者

各校の学校評議員・学校関係者評価委員

〈小中一貫教育目標〉

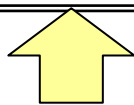
ふるさとを愛し，自律できる児童生徒の育成



〈研究主題〉

主体的に学ぶ児童生徒の育成

～「育成すべき資質・能力」の向上をめざした単元づくり・授業づくりを通して～



〈小中9年間を見通した手立て〉

主体的な学びが成立したときのゴールイメージ
課題についての PDCA

学力向上部会

○「育成すべき資質・能力」の向上をめざした単元づくり授業づくり

- ・小中一貫カリキュラム
- ・小中共通の授業モデル
- ・学びの宝石・ルーブリック評価
- ・授業チェックシート

○読書活動の推進

- ・読書手帳

生活向上部会

○家庭学習の定着

- ・サオンドノート

○生活リズムの改善

- ・メディアコントロール

特別部会

○生徒指導主事部会

- ・生徒指導上の課題解決
- ・生徒指導規程の検討

○総合的な学習の時間部会

- ・カリキュラムマップ, 「総合的な学習の時間の手引き」の検証



家庭・地域との協働